

平成 31 (2019) 年 4 月入学
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
博士前期課程学生募集要項

【一般選抜・社会人特別選抜】

平成 30 年 5 月

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番7号
電 話 (06) 6879-2512 (直通)
<http://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/www/home.html>

平成 31 年度 大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 博士前期課程 学生募集要項

平成 31 年度大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程の入学者を次のとおり募集します。選抜方法は、「一般選抜」と「社会人特別選抜」を実施します。

1. 募集人員

保健学専攻 81 名（保健師教育課程 8 名、助産師教育課程 8 名（女子のみ）、社会人特別選抜による若干名を含みます）

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者、又は次の各号のいずれかについて平成 31 年 3 月末日までに該当する見込みの者

- 1) 大学を卒業した者
- 2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により、大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者
- 3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
- 4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者
- 5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- 6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定する者に限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者
- 7) 文部科学大臣が指定する専修学校の専門課程を文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- 8) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年 2 月 7 日文部省告示第 5 号）
- 9) 学校教育法第 102 条第 2 項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、本研究科における教育を受けるにふさわしい学力があると認められた者
- 10) 大学に 3 年以上在学し、本研究科において所定の単位を優秀な成績で修得したと認められる者
- 11) 外国において学校教育における 15 年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了した者又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 15 年の課程を修了したとされる者に限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者で、本研究科において所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
- 12) 本研究科において個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で平成 31 年 3 月 31 日までに 22 歳に達する者

注 1) 出願資格 9)、10)、11)、12) により出願しようとする者は、6 月 20 日（水）までに「個別の出願資

格審査」の書類を提出してください。

注2) 社会人特別選抜を志願することができる者は、上記出願資格のいずれかに該当する者で、平成31年4月時点で、医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等において、5年以上の実務経験（通算可）を有するものとします。

注3) 出願時に就職していた者は、退職・休職証明書等を入学時に教務係に提出していただきます。

（社会人特別選抜による入学者についても一般選抜の入学者と同一の授業時間割となります。社会人特別選抜については、指導を希望する教員によく相談の上、出願してください。）

注4) 保健師免許を有する者（平成31年3月31日までに取得見込みの者を含む。）は、保健師教育課程を志願することはできません。また、助産師免許を有する者（平成31年3月31日までに取得見込みの者を含む。）は、助産師教育課程を志願することはできません。

注5) 保健師教育課程と助産師教育課程の両方を志願することはできません。

注6) 保健師教育課程及び助産師教育課程では社会人特別選抜は実施しません。

3. 個別の出願資格審査

「2. 出願資格」の9)、10)、11)、12)により出願を希望する者は、個別の出願資格審査を行いますので、所定の期日までに下記書類を医学系研究科保健学事務室教務係（以下、「教務係」という）へ持参又は郵送してください。

【持参の場合】

受付期間・・・平成30年6月19日（火）・20日（水）

受付時間・・・午前9時30分～同11時、午後1時30分～同3時

【郵送の場合】

必ず「書留」郵便で封筒の表に「前期課程出願資格審査申請書類在中」と朱書きしてください。

平成30年6月18日（月）までの消印（日本国内に限る）のあるものに限り受理します。

宛先・・・〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7

大阪大学大学院医学系研究科保健学事務室教務係

（出願資格審査申請書類）

- 1) 出願資格審査申請書（本研究科所定の用紙）
- 2) 最終学歴にあたる学校の卒業・修了（見込み）又は退学（予定）証明書及び成績証明書（専攻科は除く。）
- 3) 在職期間証明書（所属長による証明、様式任意）
- 4) 下記Iの（オ）に該当する学校を最終学歴とする者は、当該学校の入学資格、卒業又は修了に必要な修業年数・単位（時間）数を記載した書類
- 5) 返信用封筒（本研究科所定の長形3号の封筒に申請者の住所、氏名、郵便番号を記載し392円分の切手を貼付）
- 6) 戸籍抄本（卒業証明書・成績証明書等記載氏名との確認のため、結婚等で在学時と姓が異なる方は提出してください。）

注1) 個別の出願資格審査申請書の実務経験欄に記載した経歴すべてについて、在職期間証明書を提出してください。

注2) 書類提出後、必要に応じ個別に書類の追加提出を求める場合があります。

注3) 資格審査書類に不備がある場合は、原則として受理しません。また、資格審査書類提出後は原則として記載事項の変更は認めません。

※出願資格審査の結果は、本人に書面（簡易書留）で通知します。平成30年7月20日（金）までに審査結

果が届かない場合は、教務係まで問い合わせてください。問い合わせがない場合は受け取ったものとして取扱います。

大阪大学大学院医学系研究科保健学事務室教務係

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番7号

電話 (06) 6879-2512 (直通)

記

大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者の個別の出願資格審査

I 審査対象者の基準

次の左欄の学校の卒業、修了又は退学者で、右欄の期間の実務経験を有する者(見込も含む)とする。

最 終 学 歴	実務経験等の期間 (※)
(ア) 修業年限2年の短期大学の卒業者	2年以上
(イ) 修業年限3年の短期大学の卒業者	1年以上
(ウ) 高等専門学校卒業者	2年以上
(エ) 修業年限が2年以上の専修学校の専門課程の卒業者	大学卒業までの最短修業年数(16年)から専門課程を置く専修学校の修了までの最短修業年限を控除した期間以上
(オ) 外国の大学の日本校、外国人学校、専修学校(専門課程を除く)、各種学校その他国内外の教育施設の卒業者又は修了者	大学卒業までの最短修業年数(16年)から最終学校卒業又は修了までの最短修業年数(入学資格を同一とする学校を複数卒業又は修了している場合は、修業年限の最長のもののみ採用)を控除した期間以上
(カ) 上記の(ア)から(オ)までに掲げる学校の退学者	大学卒業までの最短修業年数(16年)から、当該退学した学校の退学時までの修業年数を控除した期間以上。ただし、退学時までの標準履修単位(時間)数を修得していない場合は、修得単位(時間)数の相当年数を以って修業した年数とします。

(※) 実務経験等の期間とは、次の期間を合算したものをいいます。

- (1) 大学又は短期大学において、研究生として在学した期間
- (2) 短期大学及び高等専門学校に置かれた専攻科等に在学した期間
- (3) 大学・短期大学、官公庁、研究所、会社等の教育又は研究開発部門に教育職又は研究職として研究に従事した期間
- (4) 病院等における臨床実務に従事した期間
- (5) 前各号に定める以外の期間については、当該期間毎に審査し、それぞれに一定の換算率を乗じて得た期間

II 評価の基準

最終学校の教育水準、成績、実務経験の内容等を総合的に勘案して行います。

4. 願書受理期間及び提出書類

次に示す「出願に要する書類」等を一括取り揃えのうえ、所定の期日までに教務係へ持参又は郵送してください。

【持参の場合】

受付期間・・・平成30年7月30日（月）及び同31日（火）

（受付時間・・・午前9時～同11時、午後1時～同3時）

【郵送の場合】

必ず「書留」郵便としてください。

平成30年7月29日（日）までの消印（日本国内に限る）のあるものに限り受理します。

宛先・・・〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7

大阪大学大学院医学系研究科保健学事務室教務係

なお、出願前に指導を希望する教員（志望する研究領域すべて）と必ず連絡をとり、入学後の研究・教育について面談しておいてください（別表：指導教員の研究概要を参照）。

出願に要する書類等一覧表

書 類	内 容
1. 入学願書	所定の用紙に所要事項を記入してください。
2. 連絡受信先シール	所定の用紙に所要事項を記入してください。 住所を変更した場合は、早急に教務係に連絡してください。
3. 成績証明書	ア. 出身大学（学部）長が作成し、厳封したもの。 ※ 本学医学部保健学科卒業（見込）者は不要 ※ 3年次編入した者は、編入前の学校の成績証明書も提出してください。 イ. 「2. 出願資格」の1) 以外の者については、それぞれの出願資格に応じた学校の成績証明書 ウ. 大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された場合は、学位授与に係る全成績（単位修得）証明書 エ. 「2. 出願資格」9)、10)、11)、12) の者は、提出不要です。
4. 卒業（見込）証明書等	ア. 出身大学（学部）長が作成し、厳封したもの。 ※ 本学医学部保健学科卒業（見込）者は不要 イ. 学位（学士）授与証明書 ウ. 大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与される見込みの者は、学位授与申請書受理証明書 エ. 「2. 出願資格」9)、10)、11)、12) の者は、提出不要です。
5. 受験票・写真票	所定の用紙に写真（上半身脱帽正面向きで3か月以内に単身撮影したもの）を貼付したもの。
6. 受験票送付用封筒	本研究科所定の長形3号の封筒に入学志願者の住所、氏名、郵便番号を記載し、82円分の切手を貼付してください。
7. 志望理由書	本研究科所定の用紙
8. 教育職員免許法による養護教諭の専修又は1種免許状（写）	「2. 出願資格」の8) において、左の免許状所有をもって出願資格ありと認められる者

9. 検定料	<p>30,000 円を巻末綴込みの検定料振込依頼書により、銀行振込 (ATM 不可)、ご依頼人氏名欄には必ず志願者本人の氏名で納入してください。なお振込手数料は各自で負担してください。</p> <p>国費外国人留学生の検定料の取扱いについては、教務係へ問い合わせてください。</p> <p>納入済の検定料は返還しません。ただし、次の場合により検定料を振り込まれた場合は、検定料を返還します。</p> <p>①出願したが受験資格がなかった場合 ②出願書類受付期間後に出願書類が到着し、受理されなかった場合 ③出願書類に不備があり受理されなかった場合 ④検定料を払い込んだが出願しなかった場合 ⑤検定料を誤って二重に振り込んだ場合</p> <p>なお、返還請求については、下記へ申し出てください。 返還請求書を送付いたします。 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1 番 7 号 大阪大学大学院医学系研究科保健学事務室教務係 電話 (06) 6879-2512 (直通)</p>
10. 検定料納入証明書	検定料納入証明書を所定の欄に貼付してください。
11. 願書受理通知ハガキ	本研究科所定のハガキ (郵送で出願する場合のみ) 。志願者の氏名及び住所・郵便番号を明記し、62 円分の郵便切手を貼付してください)
12. 住民票の写し	<p>外国人の志願者は、市区町村長発行の在留資格及び在留期間を明記した「住民票の写し」を提出してください。外国人登録証明書(カード)・在留カードではありません。</p> <p>※出願者以外の世帯員については、証明不要です。 (注)法務大臣が日本での永住を認めた者については、提出する必要はありません。</p>
13. 戸籍抄本	<p>結婚等で在学時と姓が異なる方は提出してください。(卒業証明書・成績証明書等記載氏名との確認のため)</p> <p>「2. 出願資格」9)、10)、11)、12) の者は、提出不要です。</p>

社会人特別選抜の志願者は、前記に併せて次の書類を提出してください。

14. 在職期間証明書	<p>実務経験等を 5 年以上有することの所属長による証明(様式任意) (在職の期間がわかる証明書) 実務経験欄に記載した経歴すべてについて。 「2. 出願資格」9)、10)、11)、12) の者は、提出不要です。</p>
15. 学術活動調書	<p>当該分野における学術活動(学術論文・研究発表等)を記載した書面(題名、研究会等の名称、場所、年月)を記載すること。(A4 判、様式任意) ※学術活動がない方も、活動がない旨の書類を提出してください。(A4 判、様式任意)</p>

保健師教育課程・助産師教育課程の志願者は、前記に併せて次の書類を提出してください。

16. 看護師免許の写し又は受験票の写し	<p>看護師免許を有する方は、看護師免許証(写)を提出してください。 看護師免許取得見込の方は入学手続き時に受験票(写)を提出していただきますが、詳細については平成 31 年 2 月上旬に送付する入学手続き書類で通知します。</p>
----------------------	---

※出願に際しての注意事項

- 1) 出願書類に不備がある場合は、原則として受理しません。また、出願後は原則として記載事項の変更は認めません。
- 2) 受理した出願書類及び検定料は、理由のいかんにかかわらず一切返還しません。
- 3) 障がい等のある方で、受験及び修学に際して特別な配慮を希望する者は、出願前に教務係に相談してください。

- 4) 入学願書の履歴、入学資格等につき虚偽の記載をした者は、入学決定後であっても入学の許可を取り消すことがあります。

5. 志望研究領域の選定

志願者は、別表「指導教員の研究概要」に示す研究領域の内、第1志望から第3志望まで入学願書に記入する必要があります。医療技術科学分野の志願者は、第1志望の研究領域に応じてコースAとコースBに分かれます。

なお、統合保健看護科学と医療技術科学の各分野間の第2・第3志望は認められません。

医療技術科学分野はコースを越えての第2・第3志望は認められます。

保健師教育課程・助産師教育課程を希望する場合は、別表「指導教員の研究概要」に示す研究領域を第4志望まで記入してください。

保健師教育課程又は助産師教育課程への入学が許可されない場合であっても、研究コースへの入学意思がある場合は、第5志望に記入してください。

6. 試験日程・試験場所

月 日 (曜日)	時 間	試験内容	場 所
平成30年8月31日(金)	9:30~11:30	学力検査	大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 吹田市山田丘1-7
	13:00~18:00	面接	

7. 入学者選抜方法

入学者の選抜は、学力検査及び面接の結果、並びに成績証明書等の内容を総合して行います。

＜保健師教育課程・助産師教育課程入学者の選抜について＞

統合保健看護科学分野合格者の中からそれぞれ上位8名を選抜します。

統合保健看護科学分野合格者のうち、保健師教育課程・助産師教育課程志願者が8名を超えた場合は、それぞれの上位8名のみ保健師教育課程・助産師教育課程への合格とし、上位8名以外は第1志望の研究コースへの合格となります。

第1志望の研究領域については保健師教育課程・助産師教育課程合格者のうちから成績上位順に各研究領域の定員をみたとすまで合格者とします。

第1志望の研究領域で合格者とならなかった者の第2志望の研究領域については、定員が満たされていない研究領域に限り、成績上位順にそれぞれの研究領域の定員をみたとすまで合格者とします。

以下同様に第4志望まで選抜を行います。

※保健師教育課程及び助産師教育課程の合格者でも、入学時に看護師免許を有していない者は、保健師教育課程・助産師教育課程に入学することはできません。ただし、研究コースへの入学は可能です。

(1) 一般選抜

1) 学力検査

【統合保健看護科学分野】

外国語(英語)・専門科目:200点

【医療技術科学分野】

外国語(英語)・専門科目:200点

※外国語(英語)では全員に英和辞書を貸与します。英和辞書の代わりに、英英辞書の貸与を希望する者は、入学願書のチェック欄にチェックしてください。

2) 面接:100点

人間性と創造性の豊かな医療人及び研究者としての適性をみるために行い、一般的な態度、思考の柔軟性、発言内容の論理性等を評価します。

(2) 社会人特別選抜

1) 学力検査

【統合保健看護科学分野】

外国語（英語）・専門科目：150点

【医療技術科学分野】

外国語（英語）・専門科目：150点

※外国語（英語）では全員に英和辞書を貸与します。英和辞書の代わりに、英英辞書の貸与を希望する者は、入学願書のチェック欄にチェックしてください。

2) 面接：100点

人間性と創造性の豊かな医療人及び研究者としての適性をみるために行い、一般的な態度、思考の柔軟性、発言内容の論理性等を評価します。

8. 受験に際しての注意事項

- (1) 試験に関する注意事項(受験者心得等)を受験票と共に一週間前までに郵送します。また、試験前日〔8月30日(木)〕13時より、保健学専攻正面玄関前に掲示します。
- (2) 試験当日は、指定された席に試験開始15分前に着席してください。
- (3) 受験に際しては受験票を必ず持参してください。なお、受験票は入学に関する諸手続にも必要なもので、紛失しないよう大切に保管しておいてください。
- (4) 受験のための宿泊施設等の斡旋はしません。
- (5) 自家用自動車及びオートバイ（原動機付自転車を含む）での大学構内への入構はできません。

9. 合格発表

平成30年9月18日（火）13時（予定）

医学系研究科保健学専攻正面玄関横掲示板にて受験番号で掲示発表します。また、当日17時まで、合否通知書等を教務係で交付します。当日、受験しなかった者には合格発表翌日に、発送します。電話等による合否の問い合わせには一切応じません。

入学手続書類等については、平成31年2月上旬に別途通知します。

10. 個人情報の取扱いについて

- (1) 出願時に提出された氏名、住所、その他の個人情報については、「入学者選抜（出願処理、選抜試験実施）」、「合格者発表」及び「入学手続」等の入試業務を行うために利用します。
なお、入学者については、「教務関係（学籍管理、修学指導等）」、「学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）」及び「授業料収納に関する業務」を行うためにも利用します。
- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、「入試結果の集計・分析」、「入学者選抜方法の調査・研究」及び「学生支援関係（奨学金申請等）」のために利用します。
- (3) 前記の(1)及び(2)の業務を行うに当たり、一部の業務を外部の事業者へ委託する場合があります。この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して、提出された個人情報の全部または一部を提供します。

11. 入学料及び授業料

1) 入学料……282,000円

2) 授業料……年額535,800円〔半期267,900円〕

※入学料、授業料の金額については、変更することがあります。

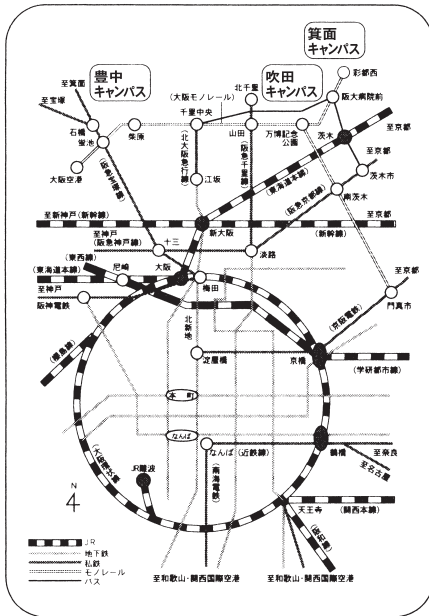
在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

12. 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻への道順

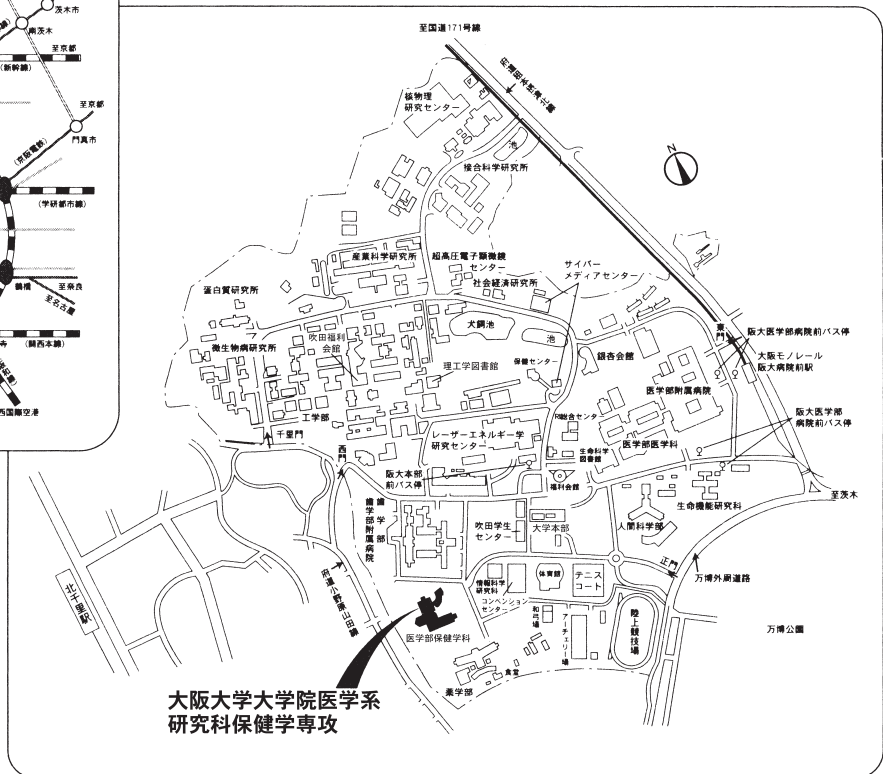
○利用交通機関

- [バ ス] 阪急バス 千里中央発「阪大本部前行」又は「茨木美穂ヶ丘行」
近鉄バス 阪急茨木市駅発「阪大本部前行」(JR 茨木駅経由)
いずれも阪大本部前下車、徒歩約5分
- [モノレール] 大阪モノレール 阪大病院前駅下車(西へ徒歩約15分)
- [電 車] 阪急電車千里線 北千里駅下車(東へ徒歩約25分)

○交通案内



○周辺地図



大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程概要

1. 保健学専攻アドミッション・ポリシー

大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、学部又は大学院の教育課程等における学修を通して、確かな基礎学力、専門分野における十分な知識及び主体的に学ぶ態度を身につけ、自ら課題を発見し探求しようとする意欲に溢れる人を受け入れます。このような学生を適正に選抜するために、研究科・専攻等の募集単位ごとに、多様な選抜方法を実施します。

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、保健学専攻博士前期課程では、これからの日本、そして世界における保健・医療・福祉のさまざまな課題を、リサーチマインドをもって探求、解決に努力する、臨床実践者、臨床科学技術者、研究者、教育者を目指す人を求めています。医学分野だけでなく多様なバックグラウンドをもつ学生が共に学ぶことにより、画期的な発想が生まれ、高い専門性と豊かな人間性が培えると考えます。医療専門職としてチーム医療や地域医療でリーダーシップをとることができる人材や、保健医療科学の研究者として研究開発を行う人材には、広い視野と柔軟な理解力が必要であり、基本的な英語力は必須です。急速に高齢化が進むわが国で、人々の健康の増進に貢献したいという情熱のある人、新たな技術の開発に向けた研究を行う気概のある人を求めています。

博士後期課程では、保健医療科学の分野で、グローバルな知識を持ち、国際的なリーダーシップを発揮できる研究者の育成を目的としています。そのためには、豊かな語学力とともに、新たな分野を萌芽的な段階の研究から切り開いていく能力、自らの専門分野にとどまらず他領域との融合による新たな展開を図る能力など、高度のデザイン力が必要とされます。また、保健・医療・福祉の研究では高い倫理観を持つことも大切です。医療界のみならず産業界からも期待され、将来の保健医療福祉分野において国際的な貢献を目指す、多角的な視野を持つ人を求めています。

2. 専攻の概要

○保健学専攻博士前期課程は、医学部保健学科を基礎とし、統合保健看護科学分野及び医療技術科学分野で構成しています。

○学際的な環境の中で保健学の理論に基づき、次のような資質を持つ、優れた人材を養成します。

- ・保健学／看護科学の開拓と進展に広く貢献し寄与する看護教育・研究者
- ・高度看護実践能力を有する指導者
- ・卓越した専門的能力をもつ看護実践者、ならびに専門看護領域における開発的役割のとれる者
- ・保健医療福祉行政において企画・調整・統括的能力を有する者
- ・保健学／看護科学と工学の融合領域の教育・研究者
- ・生命科学及び医学の幅広い知識を基礎とし、先端の物理工学手法を用いての生命現象の解明と、物理工学手法の臨床医学への応用を目指す教育・研究者
- ・放射線、超音波、磁気、光などの物理的エネルギーを用いた高度先進技術を現場で駆使するリーダー
- ・新しい物理工学的原理、情報理論に基づく診断・治療機器やシステムの開発に携わる医療技術科学者
- ・医学や生命科学の最先端の知識や技術を修得し、それに基づき医療現場で検査技術の改良や考案を行う能力を持った臨床検査技師
- ・深い科学知識に基づいて、将来、企業などで新しい検査技術や検査機器を開発できる医療技術科学者
- ・高度な生命科学的知識及び方法論を修得し、将来、大学などで検査技術科学の教育及び創造的な研究を行う教育・研究者

3. 教育課程

(1) 特色

- 本専攻は保健学領域の教育・研究者、高度看護実践指導者、高度先進技術を臨床現場で駆使する組織リーダー、医療技術科学者の養成を目指しており、教育課程は学生がそれぞれの分野で研究に必要な理論と技術の修得、実践に必要な高度な基礎的能力を育成できるよう構成しています。
- 授業科目は、共通科目と各分野の専門科目からなります。
 - ・共通科目は、21世紀の保健医療人としていずれの職種も医療現場、教育・研究で共通の視点、基盤が必要とされることから、人間と医療との関係、人間と環境との関係、人間と微生物との関係、人間の発達段階などについての考え方、情報科学等情報分析に関する研究法、ヒトの生きるメカニズム、臨床検査値からの疾病分析、薬物投与のあり方、国際的疾患などに関する授業科目を開設しています。
 - ・専門科目は、大学院教育の根幹をなすものです。学生は、各分野別に設けている統合保健看護科学専門科目又は医療技術科学専門科目の中から指導教員が指定する専門科目を履修します。
- 大阪大学の他研究科、学部の科目も履修できます。また、ME Iセンター（国際医工情報センター）、COデザインセンターの授業科目も履修可能です。
- 希望者はがん医療に関わる専門職を養成する教育コース（がんプロコース）を履修できます。このコースは我が国のがん医療の状況を改善するため平成18年度に制定された「がん対策基本法」第14条に定められている「がん医療に携わる専門的な知識及び技能を有する医療従事者の養成を図るために必要な施策」の文部科学省の教育プログラムとして平成19年度からスタートしました。平成29年度からは「多様な新ニーズに対応するがん専門医療人材（がんプロフェッショナル）養成プラン」として継続しています。保健学専攻ではがん看護専門看護師、細胞検査士、放射線技術系学科（Ⅰ）・理工系学部（Ⅱ）出身者対象に医学物理士をめざすコースがあります。入学後、がんプロコース志望の大学院生は他の学生と別のカリキュラムを受講してもらいます。がんプロコース以外の大学院生が一部の講義を履修することは可能ですし、高度副プログラムとして他研究科の大学院生が履修できるようにもなっています。詳細は「ゲノム世代高度がん専門医療人の養成」ホームページ <http://www.osaka-ganpro.jp/> を参照してください。

※がんプロコースを志望する学生は、出願に先立ち、担当教員である教授に必ず問い合わせてください。

がん看護専門看護師 荒尾晴恵教授 mail : h-arao@sahs.med.osaka-u.ac.jp

医学物理士 小泉雅彦教授 mail : koizumi@sahs.med.osaka-u.ac.jp

細胞検査士 山本浩文教授 mail : hyamamoto@sahs.med.osaka-u.ac.jp

- 授業科目は、統合保健看護科学及び医療技術科学に亘る幅広い科目を設定し、学生が有機的に受講することにより、教育・研究の相乗効果が期待されます。
- 研究指導は、指導教員のほか、必要に応じて副指導教員とで行います。指導教員は、学生の理解度、進捗などを学期ごとにチェックし、指導します。

(2) 修了の要件

- 本課程に2年以上在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。
- また、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、博士課程委員会が特に認めた場合に限り、本課程に1年以上在学すれば足りるものとします。
- 保健師教育課程・助産師教育課程の修了要件は58単位（上記30単位＋保健師と助産師の学校養成所指定規則の科目28単位）です。

(3) 学位

本課程を修了した者には、学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）の定めるところにより、修士（保健学）または修士（看護学）の学位を授与します。

4. 平成 30 年度博士前期課程開設授業科目について

平成 30 年度博士前期課程開設授業科目については、本学大学院医学系研究科保健学専攻 HP に記載しておりますので下記よりご参照ください。

http://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/www/graduate/graduate_gaiyo.html

大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 HP > 大学院医学系研究科 > 履修概要

http://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/www/graduate/graduate_list.html

大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 HP > 大学院医学系研究科 > 専門科目一覧

別表：指導教員の研究概要（博士前期課程）

分野	研究領域	氏名	研究テーマ
統 合 保 健 看 護 科 学 分 野	看護実践開発科学1	梅下浩司	1. 臓器移植の術前・周手術期・術後の病態と支援に関する研究 2. 消化器癌患者の病態と支援に関する研究 3. 手術医学／手術室看護に関する研究
	看護実践開発科学2	福井小紀子	1. エンドオブライフケア・緩和ケアに関する研究 2. 看護・介護サービスの質評価に関する研究 3. 多職種連携・医療介護連携に関する研究 4. 看工連携・介護ロボット（見守り機器）に関する研究
	看護実践開発科学3	荒尾晴恵	1. がん看護に関する研究 2. 緩和ケアに関する研究 3. 手術療法・化学療法・放射線療法に伴う看護援助に関する研究
	看護実践開発科学4	清水安子	1. 慢性病患者のセルフケアに関する研究 2. 慢性病患者の看護に関する研究
	看護実践開発科学5	遠藤淑美	1. 精神障害を持つ人の看護に関する研究 2. 精神科看護師による補完代替療法の活用に関する研究 3. 患者との対話を生み出す看護師教育に関する研究
	看護実践開発科学6	山川みやえ	1. 若年性認知症の家族介護者、介護職のケアに関する研究 2. 認知症患者の生活リズムに関する研究 3. 認知症患者のBPSDの重症化予防に関する研究 4. 寝たきり高齢者に関する研究
	生命育成看護科学1	酒井規夫	1. 先天異常患者の遺伝医療に関する研究 2. 先天代謝異常症患者家族に対する診断、治療に関する研究 3. 遺伝性疾患に対する遺伝カウンセリング、遺伝看護に関する研究
	生命育成看護科学2	山崎あけみ	1. 小児看護に関する研究 2. ファミリーインタビュー・家族機能尺度を用いた家族を対象とする研究 3. 家族看護の院内教育プログラム構築に関する研究
	生命育成看護科学3	大橋一友	1. 妊産婦管理の科学的実証研究 2. 女性のライフサイクル各期における健康支援に関する研究 3. 途上国の母子保健支援に関する研究
	生命育成看護科学4	松崎政代	1. 妊娠期・産後の生活習慣と母児への影響 2. 客観的指標を用いた母乳育児支援
	生命育成看護科学5	渡邊浩子	1. ウィメンズヘルスに関する健康支援の研究 2. 妊娠中の栄養・体重管理に関する研究 3. 母子支援に関する研究
	生命育成看護科学6	白石三恵	1. 妊娠期の栄養アセスメントツールに関する研究 2. 周産期の食習慣・運動習慣に関する研究
	総合ヘルスプロモーション科学1	岡本玲子	1. Positive Health と予防に資する公衆衛生看護技術の開発と普及 2. 効果的な保健師教育プログラム・教材・評価指標の開発と普及 3. 実践現場との協同によるアクションリサーチ
	総合ヘルスプロモーション科学2	神出 計	1. 在宅要介護高齢者のケアシステムに関する研究 2. 生活習慣病の予防・治療におけるヘルスプロモーションに関する研究 3. 高齢者コホート研究による健康長寿の要因の探求
	総合ヘルスプロモーション科学3	大野ゆう子	1. 疾病や療養経過の数量的分析・ケアメトリクス・予後予測 2. 病院・病棟業務分析：タイムスタディ・タイムプロセススタディ 3. 看工融合領域の研究 (Robotics & Design for Innovative Healthcare)

分野	研究領域	氏名	研究テーマ
統 合	総合ヘルスプロモーション科学4	小西 かおる	1. 在宅重症療養患者に係る地域ヘルスケアシステムの構築に関する研究 2. 保健活動の質の評価指標の開発に関する研究 3. 発展途上国におけるヘルスプロモーションに関する研究
	総合ヘルスプロモーション科学5	井上 智子	1. 看護サービスの質を高める看護組織のあり方 2. 安全と安楽を高める看護技術 3. あらたな看護サービスの開発と評価
	総合ヘルスプロモーション科学6	蔭山 正子	1. 精神障がい者の家族および家族会に関する研究 2. メンタルヘルスに困難を抱える親への育児支援に関する研究 3. 保健師によるグループ支援・精神保健相談に関する研究
	総合ヘルスプロモーション科学7	内海 桃絵	1. 医療関連感染の予防とリスク管理に関する研究 2. 在宅医療支援のためのシステム開発に関する研究 3. 看護教育の手法と評価、人材育成に関する研究
保 健 看 護 科 学 分 野	保健師教育課程 1	岡本 玲子	1. Positive Health と予防に資する公衆衛生看護技術の開発と普及 2. 効果的な保健師教育プログラム・教材・評価指標の開発と普及 3. 実践現場との協同によるアクションリサーチ
	保健師教育課程 2	神出 計	1. 在宅要介護高齢者のケアシステムに関する研究 2. 生活習慣病の予防・治療におけるヘルスプロモーションに関する研究 3. 高齢者コホート研究による健康長寿の要因の探求
	保健師教育課程 3	小西 かおる	1. 在宅重症療養患者に係る地域ヘルスケアシステムの構築に関する研究 2. 保健活動の質の評価指標の開発に関する研究 3. 発展途上国におけるヘルスプロモーションに関する研究
	保健師教育課程 4	蔭山 正子	1. 精神障がい者の家族および家族会に関する研究 2. メンタルヘルスに困難を抱える親への育児支援に関する研究 3. 保健師によるグループ支援・精神保健相談に関する研究
	助産師教育課程 1	大橋 一友	1. 妊産婦管理の科学的実証研究 2. 女性のライフサイクル各期における健康支援に関する研究
	助産師教育課程 2	松崎 政代	1. 妊娠期・産後の生活習慣と母児への影響 2. 客観的指標を用いた母乳育児支援
	助産師教育課程 3	渡邊 浩子	1. ウィメンズヘルスに関する健康支援の研究 2. 妊娠中の栄養・体重管理に関する研究 3. 母子支援に関する研究
	助産師教育課程 4	白石 三恵	1. 妊娠期の栄養アセスメントツールに関する研究 2. 周産期の食習慣・運動習慣に関する研究
野 連 携 分 野	高度がん看護専門看護師コース	荒尾 晴恵	1. がん看護に関する研究
	先進医療・臨床試験科学 (連絡教員1:山本浩文) (連絡教員2:大野ゆう子)	山本 晴子 濱崎 俊光 [国立循環器病研究センター]	1. 医薬品・医療機器の臨床開発・評価方法の研究 2. 臨床試験/観察研究のデザインと解析における統計的方法の研究 3. 臨床試験の効率的実施・運営に関する方法の研究
	移植コーディネーター学 (連絡教員:梅下浩司)	福 嶋 教 偉 小 中 節 子 [国立循環器病研究センター]	1. 終末期の患者家族への対応、臓器あっせんにおけるコーディネーターとシステムの研究 2. 臓器移植医療における適応評価から移植までのコーディネーターとシステムの研究 3. 移植コーディネーターの臨床能力に関する教育の研究
	がん統計・インフォマティクス (連絡教員1:大野ゆう子) (連絡教員2:三善英知)	片野 田 耕 太 [国立がん研究センター]	1. がん登録をはじめとしたがんの統計情報の総合的な解析 2. 科学的根拠に基づくがん情報の整備とがん対策の系統的かつ科学的評価

分野	研究領域	氏名	研究テーマ
医療技術科学A	医療技術科学1 (機能診断科学)	中谷 敏	1. 循環器疾患の機能画像診断学 2. 超音波新技術を用いた心動態評価法の開発
	医療技術科学2 (医用物理工学)	本行 忠志	1. 低線量放射線による生物影響の研究 2. 放射線による組織の線維化とその抑制の研究
	医療技術科学3 (医用物理工学)	福地 一樹	1. 循環器核医学診断学 2. 分子イメージングに関する研究
	医療技術科学4 (医用物理工学)	小泉 雅彦	1. がんの放射線治療の臨床研究 2. 放射線治療物理工学 (高精度放射線治療) 3. 放射線腫瘍生物学
	医療技術科学5 (医用物理工学)	近江 雅人	1. 光プローブを用いた断層撮影法の開発 2. OCTによる表皮下微小器官の機能解析 3. OCTの皮膚科学分野への診断応用
	医療技術科学6 (医用物理工学)	石田 隆行	1. コンピュータ支援診断に関する研究 2. 人工知能・先端画像処理の医療への応用
	医療技術科学7 (医用物理工学)	松本 光弘	1. 医療被ばく線量の統計的データ解析 2. 放射線治療領域の第三者線量評価システムの研究 3. 画像誘導放射線療法の患者被ばく線量管理システムの研究
	医療技術科学8 (医用物理工学)	木村 敦臣	1. MRIにおける高感度化と新規撮像法の開発 2. MRIによる肺機能診断システムの開発 3. 難治性肺疾患の早期診断・治療法の開発
	医療技術科学9 (先端医学物理コースⅠ/Ⅱ)	小泉 雅彦	1. 医学物理に関する研究 2. 医学物理学基礎の放射線生物学の研究
医療技術科学B	医療技術科学10 (分子イメージング学) (連絡教員:福地一樹)	樋口 隆弘 [国立循環器病研究センター]	1. 放射性同位元素を用いた新規トレーサーの開発と応用 2. 高磁場MRI装置・高分解能CT装置による前臨床研究基盤開発 3. 先端医療・細胞治療の分子イメージングによる開発支援
	医療技術科学11 (粒子線治療学) (連絡教員:小泉雅彦)	沖本 智昭 赤城 卓 [兵庫県立粒子線医療センター]	1. 粒子線治療の臨床研究 2. 粒子線治療装置の運用効率化に関する研究 3. 粒子線治療の物理工学研究
	医療技術科学12 (粒子線治療学) (連絡教員:小泉雅彦)	金井 達明 [大阪重粒子線センター]	1. 粒子線治療の物理工学研究
	医療技術科学13 (画像誘導放射線治療学) (連絡教員:小泉雅彦)	手島 昭樹 [大阪国際がんセンター]	1. 画像誘導法を用いた強度変調放射線治療に関する研究 2. 画像誘導法を用いた定位照射に関する研究 3. 画像誘導法を用いた患者動体解析に関する研究
医療技術科学C	医療技術科学14 (生体情報科学)	木原 進士	1. 動脈硬化発症機構の解析 2. 脂肪細胞由来因子を用いた動脈硬化の診断・治療法開発
	医療技術科学15 (機能診断科学)	高橋 正紀	1. 遺伝性神経筋難病の病態解析・治療開発研究 2. 生体膜の興奮性に関する病態・診断研究 3. 非侵襲的脳機能評価に関する研究
	医療技術科学16 (生体情報科学)	戸邊 亨	1. 病原性大腸菌の病原因子の作用機構の解析 2. 腸管内環境における病原性発現の調節機構の解析
	医療技術科学17 (機能診断科学)	三善 英知	1. 疾患関連糖鎖の機能解析 2. 消化器疾患の病態解析 3. 糖鎖とバイオマーカー

分野	研究領域	氏名	研究テーマ
医療 技術 科学 分野	医療技術科学18 (生体情報科学)	辻川元一	1. 再生医療の臨床応用および基礎的研究 2. ゼブラフィッシュを用いた神経・眼変性疾患の病態解明、治療法開発 3. 遺伝性角膜疾患の病態解明、治療法開発 4. ヒト分子遺伝学
	医療技術科学19 (機能診断科学)	尾路祐介	1. ウィルムス腫瘍遺伝子 WT1 の癌遺伝子機能 2. 癌免疫療法 (ペプチドワクチン・養子免疫療法) の開発 3. WT1 遺伝子を標的とした白血病の分子標的治療の開発 4. 癌免疫モニタリングマーカーの開発
	医療技術科学20 (機能診断科学)	山本浩文	1. がんの病理と分子機構 2. がんの核酸治療 3. がん幹細胞の特性 4. がんの三次元ゲノム
	医療技術科学21 (生体情報科学)	渡邊幹夫	1. 疾患の病態診断および発症予知のための新しい臨床検査診断法の開発 2. 自己免疫疾患の病因および発症予防に関する研究 3. ふたごを対象としたエピゲノム研究
	医療技術科学22 (生体情報科学)	山本浩靖	1. 自己免疫性脂質代謝異常症の診断法の確立 2. アディポサイトカインを中心としたメタボリックシンドロームの病態の解析 3. 動脈硬化症の病態解析
	医療技術科学23 (機能診断科学)	鎌田佳宏	1. 慢性消化器疾患進展の病態解明 2. 非アルコール性脂肪性肝疾患のバイオマーカーおよび治療法開発 3. メタボリックシンドロームの病態解析
	医療技術科学24 (ゲノム世代細胞検査) 高度診断コース	山本浩文 南雲サチ子	1. 癌の早期診断のための細胞診断学の研究 2. 細胞形態と悪性度の研究 3. 癌の転移の分子機構 4. 癌の化学予防
	医療技術科学25 (血栓症診断学) (連絡教員:尾路祐介)	小亀浩市 本田繁則 [国立循環器病研究センター]	1. 小胞体ストレス応答に関する解析 2. 止血および血栓形成に関する研究
	先進医療・臨床試験科学 (連絡教員1:山本浩文) (連絡教員2:大野ゆう子)	山本晴子 濱崎俊光 [国立循環器病研究センター]	1. 医薬品・医療機器の臨床開発・評価方法の研究 2. 臨床試験/観察研究のデザインと解析における統計的方法の研究 3. 臨床試験の効率的実施・運営に関する方法の研究
	がん統計・インフォマティクス (連絡教員1:大野ゆう子) (連絡教員2:三善英知)	片野田耕太 [国立がん研究センター]	1. がん登録をはじめとしたがんの統計情報の総合的な解析 2. 科学的根拠に基づくがん情報の整備とがん対策の系統的かつ科学的評価
睡眠医学 (連絡教員:高橋正紀)	立花直子 [関西電力医学研究所]	1. 睡眠・覚醒モニタリングに関する研究 2. 睡眠技士 (sleep technologist) のキャリア開発の研究	